子育て家庭と区長のタウンミーティング（子育てカフェ）で寄せられた主な意見

テーマ：子どもの居場所づくり

（２０２６年１０月３日開催分）

意見要旨
産前支援（妊娠期から出産準備までの主な支援）
妊娠中のうちから保育園などを見学・利用できる機会を増やし、出産後の生活や子育ての見通しを立てやすくしてほしい。
出産後の手続きについて、書類が多く、説明時間も長いため、産後間もない時期には身体的な負担が大きかった。書類の簡素化や、説明事項のうち特に重要な部分を分かりやすく伝えるなど、産後の母親の負担に配慮した対応があるとよい。
産前に受けられるサービスについて、簡単に調べられるようにしてほしい。
産後支援（出産後から1歳ごろまでの支援）
産後ケアのショートステイ・デイケアや各種講座は予約が取りづらいため、利用しやすくなるよう定員や実施枠を増やしてほしい。
子育てひろばで食事ができるようになるとよい。 また子育て広場に関する情報を充実させてほしい。
パパ向けの講座や相談機会を充実させてほしい。「父業のススメ」のような事業を増やし、パパ目線で専門家の話を聞ける機会や、パパ同士がつながるきっかけづくりができる場所を増やしてほしい。
授乳室やおむつ替えができる場所をわかりやすく周知してほしい。
二人目以降の子育てでは、上の子の保育園等への送迎負担も大きいため、送迎や移動支援を含め、二人目以降の子どもを育てる家庭への支援を充実させてほしい。
一時保育のひと月あたりの日数を増やしてほしい。
歯磨き教室や離乳食講習会は平日開催のため参加が難しい。
真夏のカンガルー面接は外出の負担が大きいため、オンラインで参加できる仕組みを導入してほしい。
産前産後家事・育児支援事業は便利なので、利用時間を増やしてほしい。
ファーストバースデーサポート事業は既に持っている物が含まれていることもあるため選択肢を増やしてほしい。
ファミリー・サポート事業に登録したものの利用しづらく、より使いやすい制度にしてほしい。
1歳を迎えた後に参加できる対象事業を増やしてほしい。
家事・育児支援事業は利用のハードルが高く、より利用しやすい制度にしてほしい。

産前の準備のことを考えると、給付や助成は早めに受けられるようにしてほしい。
離乳食講習会のおかげで、離乳食づくりのハードルがさがった。
BP1プログラムでは、月齢の近い子を持つ親と交流ができてよかった。
予防接種のスケジュール管理が大変なため、わかりやすくしてほしい。
その他
夏季に開催される乳幼児親子向けの交流会や親子ふれあいイベントについて、暑さを気にせず親子で気軽に参加できるようになるとよい。
分煙・禁煙のルールが十分に守られておらず、10月から路上喫煙が禁止された後も路上喫煙をする人が見受けられるため、対策を徹底してほしい。
保育園から小学校への連携を充実させ、子どもが安心して就学できるよう、保護者を含めた切れ目のない支援を行ってほしい。
区施設ではベビーカーを利用する方も多いため、段差解消のためのスロープなどを設置し、より利用しやすい環境を整備してほしい。
北部地域から中野駅方面へのバス路線を充実させるとともに、妊婦や子連れの方、ベビーカー利用者が安心して利用できるよう、運転手によるサポートや利用環境の向上を進めてほしい
子育て世帯の移動負担軽減や行動範囲の拡大につながるよう、電動自転車の購入に対する補助制度を設けてほしい。
中野駅はエレベーターがなく混雑も多いため、ベビーカー利用者にとって利用しづらく、おむつ替えスペースや授乳室を含めた子育て世帯向け設備の充実を図ってほしい。
外国人住民の中には、深夜に大声で電話をする、複数人で歩道に広がって歩くなど、生活習慣やマナーの違いを感じるケースがある。外国人住民が地域で生活を始める際に、日本での生活ルールや地域でのマナーなどをまとめた冊子等を配布し、周知してはどうか。
産後ケア（ショートステイ）の利用回数が多く、とても助かっている。育児中は常に悩みや不安があるが、専門職に相談し、意見を聞くことができる。
産後ケアサービスは、母子の健康にとてもよかった。